

(成果情報名) シバ型牧草による耕作放棄地の草地化技術				
[要約] 耕作放棄地でシバ型牧草を栽培して草地造成を図る場合は、センチピードグラス等の暖地型牧草が適当と考えられる。春播きの場合、牧草の発芽・定着のために徹底した除草が必要である。移植ノシバによる造成も可能である。				
畜産技術振興センター大家畜生産技術担当			平成18年度～19年度	
[部会] 畜産	[分野] 環境保全型技術	[予算区分] 県単	[成果分類]	指導

[背景・ねらい]

中山間地の耕作放棄地に和牛放牧を行うことにより、獣害防止と農地保全管理ができることが分かっている。一方、放牧を継続するためには牧草を栽培して量を確保する必要がある。そこで、本県の気候に適していると考えられるシバ型牧草について、実際の耕作放棄田を用いて栽培試験を実施し、本県に適した草種の選定と栽培技術の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

シバおよび寒地型シバ型牧草2草種と暖地型のシバ型牧草4草種について播種し、栽培試験を実施した。播種1年目からセンチピードグラスが最も生育が良く、定着性も高かった。カーペットグラスも一部定着が見られた。その他の暖地型牧草はいずれも生育や定着が認められなかった。寒地型牧草は発芽は見られたが、定着はしなかった。

播種後2年目の調査においても同様の傾向が見られた。

在来ノシバを移植した試験では、移植後すぐに定着が見られた。1年目と2年目を通して安定して定着した。

平成18年5月15日の播種後短期間で雑草に覆われてしまったので、発芽や生育状況を確認することが困難となった。播種から約6週間後に草刈り機による掃除刈りを開始した。その結果、発芽していたものについては日当たりが良くなり生育したが、播種後初期に雑草に覆われ発芽できなかったものはその後も存在が認められなかった。掃除刈りは1年目に6回、2年目に5回夏季の生育期間中実施した。

寒冷地に適する寒地型シバ型牧草は本県の気候のもとでは生育および定着が困難であると考えられる。

除草については機械刈りのほかに、放牧牛を使った除草法も考えられる。

[成果の活用面・留意点]

中山間地域の耕作放棄地で草地化を図る場合、センチピードグラス等の暖地型シバ型牧草が有望である。ただ、春に播種して草地化する場合は牧草の発芽や生育を守るために除草作業が不可欠となる。

[具体的データ]

表 1 . 各草種の生育状況

区 分	発芽期	発芽良否 6/9	1 年目定着時草勢			2 年目定着時草勢		
			7/11	8/28	10/6	6/27	8/28	10/5
播種区								
ノハ	不明	不明	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
センブリトグラス	不明	不明	4.0	4.0	5.0	7.0	7.0	7.0
バヒアグラス	不明	不明	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
バミュダグラス	不明	不明	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
カーペットグラス	不明	不明	2.5	3.0	1.5	1.5	1.0	3.0
ケンタッキーブルグラス	5/29	不明	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
レッドトップ	5/29	不明	3.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0
移植ノハ	-	-	5.0	4.0	5.0	7.0	7.0	5.0

1 年目：平成 1 8 年、2 年目：平成 1 9 年調査結果

発芽期：各プロットで発芽が認められた日、発芽良否・定着時草勢：1 (極不良) ~ 9 (極良)



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

写真の説明：写真はいずれも 2 年目 (H19.6.27)

写真 1：除草刈り前、写真 2：除草刈り後、写真 3：センブリトグラス、写真 4：移植ノハ

[その他]

・研究課題名

大課題名：

中課題名：

・研究担当者名

竹下雅文 (H18 ~ H19)

・その他特記事項

なし